



2027年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年8月3日

上場会社名 寿スピリッツ株式会社

上場取引所 東

コード番号 2222 URL <https://www.kotobukispirits.co.jp/>

代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）河越 誠剛

問合せ先責任者 （役職名）常務取締役グループ経営管理本部長 （氏名）松本 真司 TEL 0859-22-7477

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無：有

決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2027年3月期第1四半期の連結業績（2026年4月1日～2026年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2027年3月期第1四半期	18,668	10.0	4,152	20.7	4,178	20.3	2,731	18.6
2026年3月期第1四半期	16,976	9.3	3,439	0.3	3,472	0.7	2,303	1.7

（注）包括利益 2027年3月期第1四半期 2,756百万円（19.6％） 2026年3月期第1四半期 2,304百万円（1.0％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	17.69	—
2026年3月期第1四半期	14.92	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	％	円 銭
2027年3月期第1四半期	56,299	45,290	80.4	293.22
2026年3月期	60,142	47,936	79.7	310.37

（参考）自己資本 2027年3月期第1四半期 45,283百万円 2026年3月期 47,931百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	0.00	—	35.00	35.00
2027年3月期	—	—	—	—	—
2027年3月期（予想）	—	10.00	—	35.00	45.00

（注）1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

2. 2027年3月期の配当予想につきましては、本日（2026年8月3日）公表いたしました「配当方針の一部変更（中間配当の実施）及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2027年3月期の連結業績予想（2026年4月1日～2027年3月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
第2四半期（累計）	38,300	7.0	8,190	10.1	8,220	9.3	5,500	9.6	35.61
通期	84,500	7.3	20,550	10.5	20,610	10.0	13,810	10.0	89.42

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有
新規 1社 (社名) (株) 箱根ときのみ、除外 1社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- | | |
|----------------------|-----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更 | : 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| ④ 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2027年3月期1Q	155,658,402株	2026年3月期	155,658,402株
② 期末自己株式数	2027年3月期1Q	1,225,385株	2026年3月期	1,225,366株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2027年3月期1Q	154,433,031株	2026年3月期1Q	154,362,605株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法について)

決算補足説明資料はTDnetで同日開示するとともに、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8

1. 経営成績等の概況

（1）当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、雇用・所得環境の改善を背景に、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、中東情勢の不安定化をはじめとした地政学リスクの高まりによる原材料価格やエネルギー価格の高騰に加えて、食料品を中心とした物価上昇による個人消費への影響も懸念されるなど、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループは2年目となる中期経営目標「Value Up Vision2030」の実現に向け、2026年経営スローガンを「今日一人熱狂的ファンを創る」とし、商品力、売場力、販売力のValue Up、インバウンド対策のValue Up、人財力のValue Upの重点対策の遂行に取り組みました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は18,668百万円（前年同期比10.0%増）、営業利益は4,152百万円（前年同期比20.7%増）、経常利益は4,178百万円（前年同期比20.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,731百万円（前年同期比18.6%増）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

株式会社ケイシイシイが2026年4月1日付で株式会社箱根ときのみを100%出資により設立したことに伴い、「ケイシイシイ」としていた報告セグメントの名称を当第1四半期連結会計期間より「ケイシイシイグループ」に変更いたしております。

① シュクレイグループ

シュクレイグループは、誕生10周年を迎えた「バターバトラー」のキャンペーン展開や「ココリス」のリニューアルした主力商品「サンドクッキー」の販売強化など、各ブランドにおいて主力商品を軸に季節限定商品などの新商品を加え、ブランド訴求力の向上に取り組みました。福岡・長崎エリアでは、昨年12月に誕生した新博多土産「博つたらし」の卸展開や本年4月には「タンテアニー」3店舗目となる長崎空港店の出店などに取り組みました。インバウンド対策では、国際線ターミナルでの売場拡大に向け、販売人員の増強や催事展開などに注力いたしました。出退店では、本年5月に新ブランド「ミリミリ」を伊勢丹新宿店に、新ブランド「博多オリオーリ」を大丸福岡天神店に、それぞれ出店し、また、本年6月には「東京ミルクチーズ工場」グランスタ東京店のリニューアルオープンなど、3店の出店及び1店の退店を行いました。その結果、売上高は8,629百万円（前年同期比6.8%増）、営業利益は1,641百万円（前年同期比25.7%増）となりました。

② ケイシイシイグループ

ケイシイシイグループは、「ルタオ」の更なるブランド価値の増大に向け、ルタオ札幌大丸店において限定新作スイーツ「ガレナッティ」の販売強化、ルタオ運河プラザ店では限定スイーツ「アミョン」の販売強化など各直営店において、主力商品を軸に新作限定スイーツを順次発売し、ブランド訴求力の向上に取り組みました。インバウンド対策では、国際線ターミナルを中心に販売人員の増強や新ブランド「岡田謹製茶織屋」による催事展開などに注力いたしました。「ピスタアンドトーキョー」などの首都圏ブランドでは、ブランド認知度を高めるため、期間限定出店に注力いたしました。新規出店では、本年4月に「岡田謹製あんバター屋」ルミネ大宮店を出店いたしました。その結果、売上高は5,376百万円（前年同期比9.9%増）となり、営業利益は1,016百万円（前年同期比16.9%増）となりました。

③ 寿製菓グループ

寿製菓グループは、新商品開発に注力し、主要代理店及び販売子会社への提案営業を推進いたしました。沖縄展開では、主要代理店とタイアップしたOEM展開の推進や自社ブランドのパイナップルスweets専門店「ニューキュー」の展開強化などに取り組みました。また、「ニューキュー」2店舗目となる那覇空港店を本年6月にオープンいたしました。地元の山陰地区では、主力商品「因幡の白うさぎ」を中心に売場提案を推進いたしました。その結果、売上高は4,293百万円（前年同期比12.5%増）、営業利益は1,033百万円（前年同期比23.8%増）となりました。

④ 販売子会社

販売子会社は、各販売拠点において主力商品対策及び地域特性にマッチした新商品の発売、インバウンド対策などに注力いたしました。エリア別では、東海地区は、15周年を迎えた主力商品「小倉トーストラングドシャ」の販売強化、関西地区は、新商品「大阪とらさんど」及び季節限定商品「大阪みたらし水まんじゅう」の販売強化などに取り組みました。また、福岡地区では、「博多まっかな苺」ブランドの展開強化及び新商品の博多料亭 稚加榮「明太天ぷらせんべい」の販売強化などに取り組みました。その結果、売上高は1,952百万円（前年同期比9.7%増）、営業利益は276百万円（前年同期比32.8%増）となりました。

⑤ その他

その他は、損害保険代理業、健康食品事業、海外（台湾）における菓子事業が含まれております。売上高は148百万円（前年同期比48.1%増）となり、営業損失は3百万円（前年同期は営業損失13百万円）となりました。

（2）当四半期の財政状態の概況

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、56,299百万円となり前連結会計年度末と比べ3,843百万円減少いたしました。

主な要因は、現金及び預金の減少（3,388百万円）、受取手形及び売掛金の減少（1,687百万円）、有形固定資産の増加（637百万円）などによるものです。

負債は、11,008百万円となり前連結会計年度末と比べ1,197百万円減少いたしました。

主な要因は、未払法人税等の減少（2,033百万円）、賞与引当金の減少（667百万円）、流動負債のその他の増加（1,492百万円）などによるものです。

純資産は、45,290百万円となり前連結会計年度末と比べ2,645百万円減少いたしました。

主な要因は、配当金の支払いによる減少（5,405百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益計上による増加（2,731百万円）などによるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ0.7ポイント増加し80.4%となり、1株当たり純資産額は293円22銭となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想に関しましては、本資料発表日現在におきましては、第2四半期連結累計期間及び通期ともに前回公表数字（2026年5月14日付「2026年3月期決算短信」）からの変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	32,200	28,811
受取手形及び売掛金	8,257	6,570
商品及び製品	3,015	3,417
仕掛品	155	163
原材料及び貯蔵品	889	925
その他	257	347
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	44,775	40,236
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,188	5,210
機械装置及び運搬具（純額）	3,164	3,133
工具、器具及び備品（純額）	520	559
土地	2,885	2,905
リース資産（純額）	14	13
建設仮勘定	606	1,195
有形固定資産合計	12,380	13,017
無形固定資産	141	136
投資その他の資産		
その他	2,850	2,914
貸倒引当金	△5	△5
投資その他の資産合計	2,845	2,909
固定資産合計	15,367	16,063
資産合計	60,142	56,299

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,067	2,206
未払金	1,865	1,694
未払法人税等	3,488	1,455
賞与引当金	1,298	631
その他	1,383	2,876
流動負債合計	10,102	8,863
固定負債		
退職給付に係る負債	1,882	1,924
その他	220	220
固定負債合計	2,103	2,145
負債合計	12,206	11,008
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,263	1,263
資本剰余金	1,350	1,350
利益剰余金	47,892	45,218
自己株式	△2,842	△2,842
株主資本合計	47,663	44,989
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	94	126
為替換算調整勘定	33	37
退職給付に係る調整累計額	140	129
その他の包括利益累計額合計	267	293
非支配株主持分	5	7
純資産合計	47,936	45,290
負債純資産合計	60,142	56,299

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
売上高	16,976	18,668
売上原価	6,670	7,118
売上総利益	10,305	11,549
販売費及び一般管理費	6,865	7,397
営業利益	3,439	4,152
営業外収益		
受取利息	1	5
受取配当金	3	5
受取地代家賃	12	8
受取保険金	8	—
その他	8	8
営業外収益合計	34	27
営業外費用		
減価償却費	0	0
その他	0	0
営業外費用合計	1	1
経常利益	3,472	4,178
特別利益		
固定資産売却益	0	—
特別利益合計	0	—
特別損失		
固定資産除却損	2	1
特別損失合計	2	1
税金等調整前四半期純利益	3,469	4,177
法人税等	1,166	1,446
四半期純利益	2,303	2,731
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△0	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,303	2,731

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
四半期純利益	2,303	2,731
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△7	32
為替換算調整勘定	15	4
退職給付に係る調整額	△7	△10
その他の包括利益合計	0	25
四半期包括利益	2,304	2,756
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,304	2,757
非支配株主に係る四半期包括利益	△0	△0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	368百万円	410百万円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				
	シュクレイ グループ	ケイシイシイ グループ	寿製菓 グループ	販売子会社	計
売上高					
外部顧客への売上高	7,739	4,801	2,588	1,746	16,876
セグメント間の内部 売上高又は振替高	340	90	1,229	32	1,692
計	8,079	4,891	3,818	1,779	18,568
セグメント利益 (△は損失)	1,306	869	835	208	3,218

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	100	16,976	—	16,976
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	1,692	△1,692	—
計	100	18,668	△1,692	16,976
セグメント利益 (△は損失)	△13	3,205	234	3,439

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに海外（台湾）における菓子事業が含まれております。

2. セグメント利益（△は損失）の調整額234百万円は、当社とセグメントとの内部取引消去額552百万円、セグメント間取引消去額7百万円、棚卸資産の調整額△3百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△321百万円であります。全社費用は主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益（△は損失）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				
	シュクレイ グループ	ケイシイシイ グループ	寿製菓 グループ	販売子会社	計
売上高					
外部顧客への売上高	8,413	5,255	2,917	1,933	18,519
セグメント間の内部 売上高又は振替高	216	121	1,376	19	1,732
計	8,629	5,376	4,293	1,952	20,252
セグメント利益 (△は損失)	1,641	1,016	1,033	276	3,968

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	148	18,668	—	18,668
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	1,733	△1,733	—
計	148	20,401	△1,733	18,668
セグメント利益 (△は損失)	△3	3,965	186	4,152

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに海外(台湾)における菓子事業が含まれております。

2. セグメント利益(△は損失)の調整額186百万円は、当社とセグメントとの内部取引消去額600百万円、セグメント間取引消去額7百万円、棚卸資産の調整額5百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△426百万円であります。全社費用は主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更に関する事項

株式会社ケイシイシイが2026年4月1日付で株式会社箱根ときのみを100%出資により設立したことに伴い、「ケイシイシイ」としていた報告セグメントの名称を当第1四半期連結会計期間より「ケイシイシイグループ」に変更いたしております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。